

公安委員会定例会議(第19回)の開催状況

第1 日 時 令和4年8月3日(水)

午後2時10分 ～ 午後4時55分

第2 出席者 五葉委員長、曾我部委員、渡部委員

本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、生活安全部長

刑事部長、交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長

総務課長

第3 議事の概要

1 渡部委員説示

本日は、歴史を学ぶことの大切さについてお話しします。

ある時、阿波本部長から愛媛県歴史文化博物館を訪れ、大変素晴らしく愛媛を知る上で大いに参考になった旨の話がありました。私は、過去に会議で訪れたことはありましたが、常設展等は鑑賞したことはなく、愛媛で生まれ育った私が博物館に何が展示されているのか知らないことをすごく恥ずかしく感じ、すぐに博物館を訪ねました。

博物館の展示を見ていると、縄文、弥生、近代等、長い愛媛の歴史を巡ることができ、何か不思議な感覚に陥ったのを覚えています。自分が生きた時間は、この長い歴史の中での一瞬ですが、歴史はその一瞬一瞬の積み重ねであり、その時代の人々は皆最善を尽くして生きていたはずです。後で振り返ると良いことも悪いことも多くありますが、歴史を学ぶことは、大変意義があると思えました。

私は、数年前から砥部町の文化財保護委員をしています。砥部町には、建造物や絵画、陶芸等、数多くの文化財があります。私も現地調査に行き、草が生えて荒れ放題になっている土地の下から、江戸後期から明治大正に作られた砥部焼のかけらをたくさん見つけ出したことがあります。砥部町では、こうした文化財を活用しながらこれまでの歴史を振り返ることで新しい街づくりをしようとしています。

このように歴史を学ぶことは、現代を考えること、人間を考えること、未知の物への理解を深めることだと言われていています。歴史文化博物館に入った時に感じた不思議な感覚は、改めて歴史を学ぶことの重要性を実感したからだと思っています。

警察本部や各警察署にも、それぞれ沿革史があり、様々な歴史があると思いますが、そうしたものに機会あるごとに目を通すことによって、これからの成長につながる何か必ず見つかるものと考えます。

阿波本部長には、歴史を知ることの大切さについての気付きを与えていただき、感謝申し上げます。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和4年第18回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 公安委員会宛て苦情申出の受理（2件）

総務室から、公安委員会宛て苦情申出の受理について伺いがあり了承した。

(3) 公安委員会宛て苦情申出書に対する回答

総務室から、公安委員会宛て苦情申出書に対する回答について伺いがあり了承した。

(4) 交通規制に関する意思決定

交通部から、交通規制に関する意思決定について伺いがあり了承した。

(5) 聴聞実施結果

交通部から、聴聞実施結果について伺いがあり了承した。

(6) 指定自動車教習所に対する行政処分

交通部から、指定自動車教習所に対する行政処分について伺いがあり了承した。

(7) 受験資格特例教習の指定

交通部から、受験資格特例教習の指定について伺いがあり了承した。

(8) 警察職員等の援助の要求

警備部から、警察職員等の援助の要求について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 令和4年夏季人事異動の日程

警務部長から、令和4年夏季人事異動の日程について報告があった。

委員から、「職員や家族のためにも、無理のないゆとりある異動期間の設定に配慮していただきたい」との発言があった。

委員から、「人事異動は組織の活性化や発展のために必要である。人事異動に当たっては、個々の要望に可能な限り配慮していただきたい」との発言があった。

(2) 令和4年上半期における自動車警ら隊の活動状況

生活安全部長から、令和4年上半期における自動車警ら隊の活動状況について報告があった。

委員から、「自動車警ら隊の素晴らしい活躍を様々な場面で広報するなど、隊員の士気高揚に努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「混乱する現場での受傷事故防止に向けて、術科による体力錬成と職務質問の能力向上に取り組んでいただきたい」との発言があった。

委員から、「職務質問による有形力の行使の限界等について、警察官個々が根拠法令を含めしっかり理解する必要がある」との発言があった。

(3) 交番・駐在所のソフトイメージ大作戦

生活安全部長から、交番・駐在所のソフトイメージ大作戦について報告があった。

委員から、「交番等は、地域住民と最もふれ合うことができる身近な場所である。こうした素晴らしい施策を1回きりで終わらせることなく、継続的に取り組んでいただきたい」との発言があった。

委員から、「優秀な取組を賞揚するなど、交番等のイメージアップに取り組む部署の励みとなる施策も取り入れていただきたい」との発言があった。

(4) 松山東署地域警察官活躍大作戦（職務質問）推進結果

生活安全部長から、松山東署地域警察官活躍大作戦（職務質問）推進結果について報告があった。

委員から、「若手警察官が不審者等のわずかな挙動等をきっかけに職務質問ができるように指導育成していただきたい」との発言があった。

委員から、「職務質問による検挙率が下がらないように技術の向上を図るとともに『勘』を養っていただきたい」との発言があった。

(5) 令和4年上半期における機動警察通信隊の活動状況

情報通信部長から、令和4年上半期における機動警察通信隊の活動状況について報告があった。

委員から、「見えないところで県民の安全安心に貢献してもらっていることが理解できた。引き続き、しっかり取り組んでいただきたい」との発言があった。

委員から、「通信機器は日進月歩で改良されており、素晴らしい機器が生まれている。いつ何時でも通信関連機器がスムーズに活用できるように点検と新たな知識や技術の習得に努めていただきたい」との発言があった。

(6) 監察案件に関する報告

警務部から、監察案件に関する報告があった。

(7) 上半期における児童虐待事案への対応状況

生活安全部から、上半期における児童虐待事案への対応状況について報告があった。

4 その他

(1) 刑事部長及び生活安全部長から、8月1日に発生した松山市樽味における現住建造物放火事件の概要及び警察の措置状況について報告があった。

(2) 本部長から、「愛媛県警が3,000人弱という限られた人員で治安の確保はもとより社会の動きに対処していくためには、どのタイミングで何にどう取り組んでいけばテコの原理のようによく物事が進むのかを常に考える必要がある。そのためには、委員説示のとおり、歴史やそれ以外

の様々な事象をつぶさに把握していくことが重要であり、警察職員もそうした観点を持って様々な知識を身に着けることが大切であると改めて認識した。「私が愛媛で学んだ2つのことについて述べたい。一つは『言葉の力』である。言葉は、人々に大変大きくまた強い影響を与えることができる。警察は強い権限を付与されているが、法律上の権限だけで世の中を動かすことは難しい。言葉の力で世の中をより良い方向に変えていくことが必要であり、そのためには、より訴求力のある言葉を発信していくことが重要である。県都松山には至る所に句碑が立てられており、様々な言葉を知る良い機会を与えてくれているが、私が最も大きな感銘を受けたものを一つあげると言われれば、松山市庁舎に掲げられていた小学生の『弟が泣いていたから笑わせた』である。まさに警察活動の核心を言い表した言葉でもあり、皆がそのような気持ちでいれば素晴らしい世の中になると思ったところである。もう一つは『警察にとって地域との協働作業が最も重要』ということである。警察は、捜査だけでは治安を維持することができない。つまり、警察だけの力では何事も成しえないということであり、地域との協働が極めて重要であることを強く認識した。コロナ禍において、警察と地域との絆が毀損してしまっている。これを再生し、更に強固なものにしていくことが今後の大きな課題であろう」「公安委員には様々な観点から御指導いただき、また、苦難のある度に激励をいただき、本当に心強く仕事をする事ができた。改めて感謝を申し上げます」との発言があった。

以 上